# 万一の備え～火災保険と地震保険

9月1日は台風、高潮、津波、地震などの災害についての認識を深め、災害に対する心構えを準備する「防災の日」です。

7月の豪雨と猛暑は異常気象だったという気象庁の発表もありましたが、万が一の時の経済的な備えとして損害保険があります。

例えば、加入している火災保険に水災補償が付いていると、台風や暴風雨などによる洪水や土砂崩れなどの被害に備えることができます。

ところが、同じ火災保険でも、「地震」を原因とする火災の損害は補償されません。さらに、「地震」を原因とする津波や家の倒壊などの損害も補償されません。

そこで、地震時の備えとして地震保険があります。地震保険は政府と損害保険会社が共同で運営していますので、どこの保険会社で加入しても保険料は同じです。保険料は居住地域と建物の構造で決まります。

地震保険は単独では加入できず、火災保険と一緒に加入します。現在加入している火災保険に途中からセットできます。

契約金額は火災保険の契約金額の30～50％の範囲内です。ただし、建物は5千万円、家財は1千万円が限度額です。

この保険金だけでは必ずしも元通りの生活に戻れるとは限りませんが、支払われる保険金は使途を問わないので、建て直しや仮住まいの費用など、被災後の当面の生活を支えてくれます。

防災の日をきっかけに、我が家の防災グッズや、経済的な備えを点検してみましょう。

星　洋子（ほし　ようこ）
1級FP技能士、2級DCプランナー。一般企業で10年以上経理・総務業務に従事しながら、自身の家計の見直しのためにFPの資格を取得。ライフプランを提案する独立型FPとしてセミナー講師、相談業務などを中心に活躍中。



# 未来に発信する情報を考える

筑波大学名誉教授大濱徹也氏の「歴史学が単なる過去の探求ではなく、未来学でもある」という言葉があります。この言葉を肝に銘じ、栗山町史第3巻粗原稿執筆を開始しています。

スマホ・タブレットなどの普及に伴い、世界規模の情報ネットにさらされる中、道内のみではなく、全国・全世界規模の広い視点で物事を捉える必要性を感じています。

また、北海道の名付け親である松浦武四郎は、6回の北海道（当時の蝦夷地）探索を経て、現在の北海道地図とは逆様（さかさま）の、北から見た北海道地図を作成したことを知り、多様な視点で事実を捉えることも重要だと感じます。それを踏まえ、栗山町の位置やアクセスの記載内容を考えています。例えば、このような記述はどうでしょうか？

**栗山町は、北海道「道央地区」空知の南部に位置し、道都札幌市、新千歳空港、港湾苫小牧市に車で約1時間の距離にある。**

**北海道介護福祉学校では、フィンランドのカヤーク市看護・介護短期大学との学生交流を行っており、その移動は飛行機で約28時間の距離である。また、姉妹都市の宮城県角田市とは飛行機と車での移動を含わせて約2時間の距離である。**

しかし、未来に遺る記述を考えたとき、福沢諭吉の「ただの知識の問屋ではいい飯は食えない」（「学問のすゝめ」より）という言葉が反芻（はんすう）されます。過去と現在との対話の中で、未来へ伝えるべき内容を吟味し、執筆していきたいと思っています。

（阿部）

**【問い合わせ】**
町史編さん室（カルチャープラザ「Ｅｋｉ」内）
☎㉖７８２０

松浦武四郎が作成した「北から見た北海道地図」



# サケの自然産卵を目指して

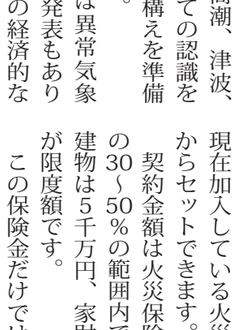
こんにちは、地域の誇創生委員会副委員長の池下雄介です！

私たちは「郷土愛の醸成」をテーマとして、今年もサケの自然産卵を実現するために、9月15日に「夕張川河川清掃」を行います！

今年で11年目を迎えるこの運動ですが、平成27年に72年ぶりに夕張川の支流である雨煙別川でサケの遡上を確認できてから、年々遡上するサケが増加してきています。地域住民の皆さん、そして日本ハムファイターズの栗山監督のご協力もあり「サケの自然産卵の実現」が夢ではなく「正夢」になる日が近づいてきていると実感しています。

しかし、毎年清掃活動をしているにも関わらず、サケの産卵場所ではいまだに多くの「ごみ」が散見されています。どうか皆さんのご参加をよろしくお願いします。

また、今年は地域の子どもたちに「未来の夕張川の姿」をテーマに描いてもらう「第一回夕張川の理想の未来」絵画コンクールを開催しました。一市四町（夕張市・栗山町・由仁町・長沼町・南幌町）で展示会も行いますので、ぜひ子どもたちの力作をご覧いただければうれしく思います。



私たちはこの運動を少しずつ積み重ねていくことで、地域住民の皆さんに、夕張川を身近に感じていただき、地域に想いを寄せるきっかけになってもらえればと考えています。

これからも皆さんのご協力をよろしくお願いします。

※詳細は左記ホームページをご覧ください。

栗山青年会議所ホームページ
WEBまおい（はこちら）
https://www.kuriyama-jc.jp/



# クリヤマプロジェクトで恩返しを

こんにちは！地域おこし協力隊の金谷です。

7月28日に「バービー×佐々木学町長　まちづくり対談『ひとが減るとまちはどうなる？』」が行われました。栗山町出身のお笑い芸人「バービーさん」と佐々木町長の対談は、ユーモアがありつつも人口減少を身近に感じ、まちの課題について考えさせられました。そんな中、私たち地域おこし協力隊4人も若者ゲストとして、11月にオープンさせるカフェ＆バーや若者の起業支援など、現在取り組んでいる事業のプレゼンテーションをさせていただきました。バービーさんにもこの事業に大きな関心を持っていただきました。

また、参加された町民の皆さんには「オープンしたら必ず行きます」など、多くの励ましのお言葉をいただき、私たちにとって本当に大きな力になりました。

8月下旬まで行っていたガバメントクラウドファンディングでは多くの方からご支援をいただき、目標金額の300万円を達成することができました。心から感謝しています。皆さんからのご支援を「若者のまちクリヤマプロジェクト」で恩返しができるよう、精一杯頑張ります。今後ともよろしくお願いします！

**【問い合わせ】**
町ＰＲ隊事務所
☎㉖７１０３

開会前に第2部の発表者などと記念撮影（写真後列左から1番目）